

教授の本棚

The Circulation of Knowledge

教授の本棚

The Circulation of Knowledge

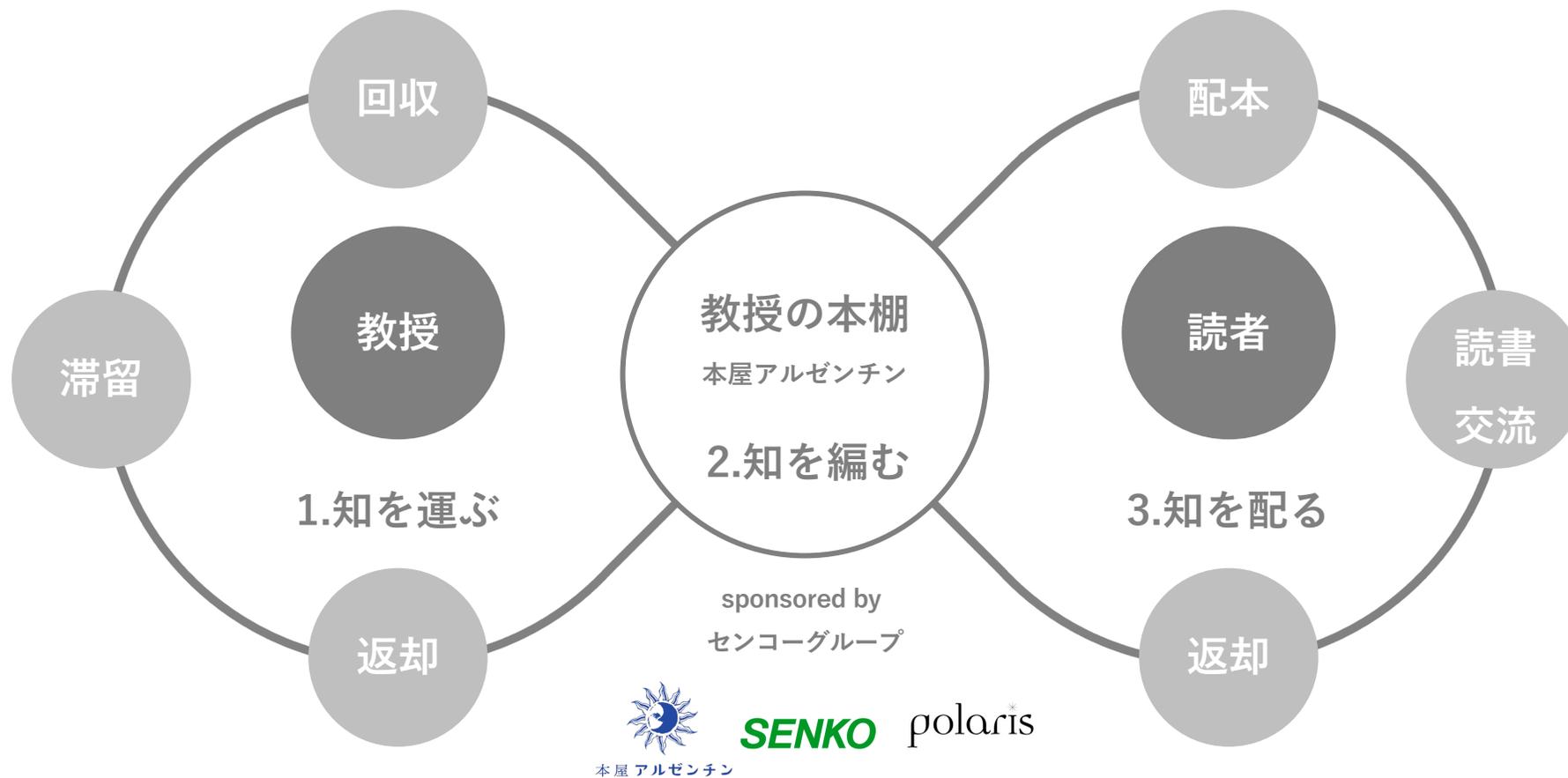
「教授の本棚」は、大学教授の本棚から書籍を配本するサービスです。

教授の本棚。それは、本を選び、読み、教え、咀嚼してきた教授の生きた時間が圧縮された知の世界です。そうした書籍たちは、普段学校の外にいる私たちの知的好奇心をも揺さぶる存在ではないでしょうか。時に難解で、考えさせられる言葉の数々。しかしそれは、受け取り手の日常を揺り動かす「わからなさ」かもしれない。

教授の本棚には沢山の書籍が並んでいます。多くの本は、書棚で眠っており、教授の退任時には破棄される本も少なくありません。彼らが磨き上げてきた身体の一部ともいえる教授の本棚を、社会へ開くことはできないか。私たちはそう考えました。

曖昧さを許さず「わかりやすい」ことのみが尊ばれ、本や書籍がインスタントに「消費」されていく時代。そんな社会の潮流に向けて、本屋アルゼンチンからささやかな抵抗を始めます。その一歩が「教授の本棚」です。

プログラム概要



1.知を運ぶ

教授の本棚に眠っている書籍を、
センコーグループ様の協力
のもと全国から収集します。

2.知を編む

収集した書籍を
本屋アルゼンチンが編集し
参加者の方に送ります。

3.知を配る

参加者は1月書籍と過ごし、
期間中は参加者や教授とも交流
期間終了後本を返却します。

こんな方へ届けたい

こんな方へ届けたい

- 最近手にする本に、物足りなくなってきた方々
- 刺激を欲している、ビジネスパーソン
- 答えのない仕事や問いに向き合っていて、困ってる人
(ビジネス、子育て、恋愛、進路など生きること全般)

手に残るかもしれないもの

- ふっと立ち止まる時間
- 答えを出す前の一呼吸
- わからないねと言い合える仲間

参加者の声

自分がどれだけ探しても、
多分手に取れない本が来るっていう
ところに何か価値がある

自分の部屋に自分のものでなくて
自分のチョイスでもないものでやってきた本たちって
のを見るのが不思議な感覚

書き込みがあったりしたので
なんか先生がどういうふうに関わられてこられたのか
なっている歴史を感じながら読みました



南 博文 Minami Hirofumi

広島生まれの環境心理学者。アメリカの大学院を終えて意気揚々と帰国するも就職浪人。子ども時代から憧れだったチンチン電車の車掌をやって身をつなぐ。この経験がのちに都市を精神分析する発想のきっかけを作った。9/11の爪痕の生々しいニューヨークでフィールドワークを行う。2022年まで九州大学に勤務、現在は、立命館大学ものづくり質的研究センター所属。ニューヨーク市立大学客員教授、フルブライト研究員を歴任。隔週で本屋アルゼンチンに店員として店に立ち、社会人修行中。